

要約

進化心理学においては、ヒトのとりうる性戦略は、短期的配偶戦略 (short-term mating strategy) と長期的配偶戦略 (long-term mating strategy) の2つに分類される。すなわち、複数の相手と短期的に性的な関係を結んでいくスタイルと、一人の相手と長期的な関係を結んでいくスタイルに分けられる。これらの2つの戦略には性選択理論から予測される性差と一貫して、多くの社会において男性のほうが短期的配偶戦略に許容的であることが知られている (for a review, Buss & Schmitt, 1993)。配偶戦略はパーソナリティと強く関連する個人差があることが示されている一方、人生を通じた生活史の中で、年齢や婚姻形態とともにどのように変動するのかに関してはほぼ未検討である。そこで本研究では、幅広い年齢層 (20代—50代) のサンプルを用いた横断的研究によって、短期的配偶戦略と年齢の関係を検討した。その結果、先行研究と同様に男性は女性よりも短期的配偶志向が強く、また加齢にともなって男性の短期的配偶志向は減衰することが示された。女性においてはそのような傾向はみられなかった。また近年のテストステロン濃度と婚姻形態に関する研究と一貫して、配偶者の有無 (結婚) によって短期的配偶志向が減衰すること、また男性においては子どもの有無も同様の影響を持つことが示された。